

博士課程教育リーディングプログラム 平成25年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成25年度		
申請大学名	名古屋大学	申請大学長名	濱口 道成
申請類型	複合領域型（情報）	プログラム責任者名	山本 一良
整理番号	R02	プログラムコーディネーター名	武田 一哉
プログラム名	実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム		

＜プログラム進捗状況概要＞

1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムでは、情報科学・工学・医学系・経済の4研究科に跨る、機械・人間・社会を対象にした、「データ取得の学理」と「データ解析の数理手法」を体系的に学ぶとともに、「多くのケーススタディ」を行うことで「実世界データ循環」を俯瞰する力を養う。さらに、豊富な海外経験や産業現場の経験を通して、この俯瞰力を確固たるものにしつつ、実世界データ循環による社会的価値創造に寄与しう博士論文研究を行うことで、「実世界データ循環」を構築する力を得る。このようなプログラムを高い意欲と学力を持った学生に対して実施することで、産業界における将来のリーダー候補を養成する。

研究科に跨る学域において、学位プログラムを柔軟に（複数専攻教員の協働、外国人特任教員の雇用、国外からのプログラム参加）設立することを可能にする改革を行い、グローバル社会（採用側、入学側）のニーズに応え得る（top 100を確固たるものにする）教育研究組織を目指す。

2. プログラムの進捗状況

- (1) 平成25年10月の採択以来、実施体制を構築するとともに、専任教員の雇用、事務補佐員の雇用、履修学生スペースの整備、事前プログラム開始前のプログラム（Data Tools First）の準備、SNSとeportfolioの連携システム（eアゴラ）など、育成環境の整備を進めた。
- (2) 学内教員の組織化、国内外の学外教員の訪問と実施打ち合わせを行い、教育体制を整備した。学内組織「リーディングプログラム推進機構」に設置されたコーディネーター会議に参加し、学内6リーディングプログラムとの連携体制を作った。
- (3) 4研究科に跨り大学院規定を改定し、プログラムと研究科カリキュラムとの整合を図った。
- (4) 卒業論文、大学院入試成績、人材啓発セミナー資料、英語を含む面接を、企業教員、若手教員を交えて行い、22名の志願者から15名の正規履修生（外国人6：日本人9、情報8：工学6：医学1、男性8：女性7）を選抜した。研究科からの推薦を受けて、2名（医学1、経済1）の準履修生を採用した。
- (5) 事前プログラムである、Data Tools Firstを2週間に渡り開講し、入学者の学力の底上げを図った。